

---

# 昭和医科大学 統括薬剤部 臨床研修薬剤師制度

---



2026年 4 月

昭和医科大学 統括薬剤部

本資料は、2年間の研修制度を示したものである。各年次のカリキュラムの評価は、「目標と評価」で行うこと。

## 目次

1	昭和医科大学が目指す臨床研修薬剤師教育 .....	3
2	臨床薬剤師研修薬剤師のキャリアパス .....	5
1	研修施設および年間スケジュール .....	6
2	PGY1 修了の単位認定条件 .....	8
3	PGY2 修了の単位認定条件 .....	9
4	PGY2 選択研修 .....	9
5	所属学会・団体と推奨する認定資格 .....	10
6	臨床研修薬剤師が実施可能な業務 .....	11
7	指導体制（統括薬剤部会議、プログラム実行部会、シニア、プリセプター） .....	13
8	コンピテンシーとルーブリック評価 .....	14
9	臨床研修薬剤師の研修条件 .....	15
10	関連資料 .....	17
11	研修責任者および研修施設 .....	18

## 1 昭和医科大学が目指す臨床研修薬剤師教育

昭和医科大学の薬剤師臨床研修は、全ての薬剤師に求められる幅広い基本的な能力（知識・技術・態度・情報収集力・総合判断能力）を身につけることを目的としています。本プログラムでは、知識・技術の修得のみならず、建学の精神である「至誠一貫」を身につけるように、薬剤師としての倫理性、医療安全管理への積極的な対応、医療チームの一員としての協調性、患者およびその家族とのコミュニケーションなど、薬物療法を通して薬剤師に必要な資質を涵養することを目標としています。

### 1.1 プロフェッショナリズム

- (1) 強い責任感と倫理観を持って、社会人、薬剤師としての責務を自覚し、患者や地域住民に医療を提供する。
- (2) 上長、指導薬剤師への報告、連絡、相談を組織の一員であることを自覚し実践する。
- (3) 課題について自ら考え、解決する方策を立案し、実践する。
- (4) 薬剤師法その他関連法令等を正しく理解するとともに、これらを遵守して医薬品管理等の職務を遂行する。

### 1.2 コミュニケーション能力

- (1) 病棟の多くの医療スタッフと、日常的に適切な態度で接して、コミュニケーションを取り、最良の医療を提供できるよう、良好な人間関係、信頼関係を構築できる。
- (2) すべての患者に対して、コミュニケーションを取り、心理状態や病状の変化、理解度と反応に合わせて、指導することができる。

### 1.3 患者中心のチーム医療

- (1) 病院および地域社会において、医療チームで薬剤師が担うべき役割を把握し、薬剤師としての自己行動計画をたてて、患者を中心としたチーム医療に関わる情報を共有する。
- (2) 患者の治療について多職種に積極的に提案・討議し、治療の決定及びモニタリングを実践できる。

### 1.4 医薬品の調剤・調製、管理、供給

- (1) 調剤の一連流れを理解し、調剤、調製、監査、服薬指導を適切に実施できる。
- (2) すべての医薬品の特性と法規を理解し、医薬品の管理、供給を適切に実施できる。
- (3) 医薬品の必要な情報を収集、評価し、それらを適切に情報提供できる。

### 1.5 適正な薬物療法の実践

- (1) 最適な科学的根拠に基づいており、患者の現在の病態や生理機能、合併症とともに、患者の思いや環境に配慮した最適な薬物療法を実践する。
- (2) 薬に関連する問題点を抽出し、評価・改善できる。

**1.6 地域への貢献**

- (1) 病院薬剤部と保険薬局との連携促進を図り、業務上の課題共有、解決することにより、患者により良い地域医療を推進することを理解できる。
- (2) 多様な患者に対し、退院後の医療環境（在宅、外来、転院など）と、関与する医療者を把握し、これらの医療者が利用することを想定した情報提供を実践できる。

**1.7 医療安全管理**

- (1) 医療安全の重要性を理解し、規定・手順に沿った医療を実践し、医療安全文化の向上に貢献できる。
- (2) 発生した医薬品の副作用・アレルギーに対応できる（医薬品安全性情報報告書、副作用被害救済制度、臨床的な対応と代替薬の提案）。
- (3) 個人情報管理などの医療上の特に管理に注意が必要な事項を理解し、適正な取り扱いを実施できる。

**1.8 薬学研究と自己研鑽**

- (1) 研修を通して、医療の発展に貢献する医療・薬学に関わる研究課題に、取り組む姿勢を修得する。
- (2) 最新の知識や技能、必要な情報を生涯にわたって獲得するために自己研鑽に努める。

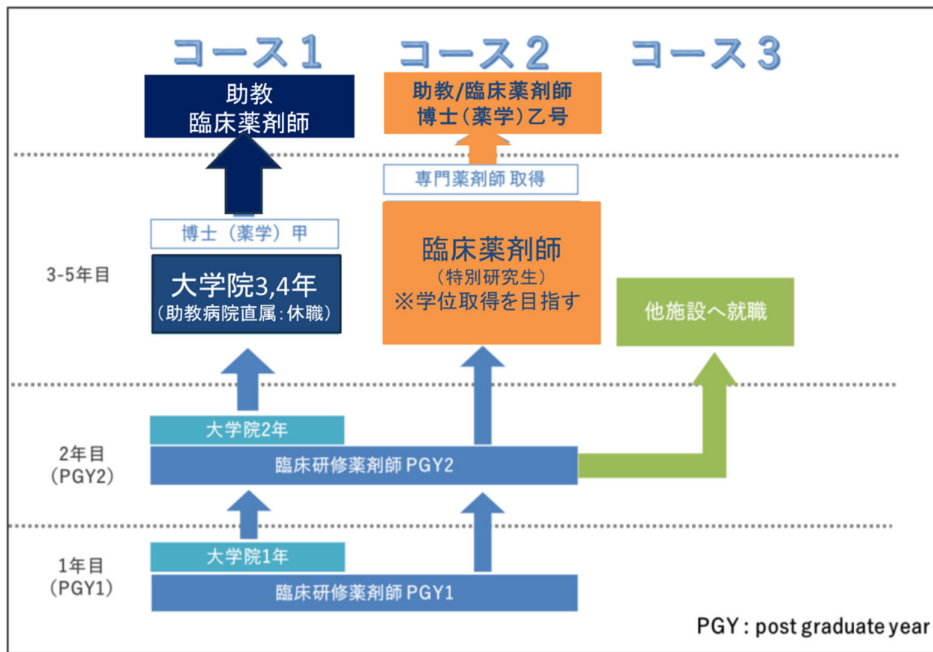
## 2 臨床薬剤師研修薬剤師のキャリアパス

臨床研修薬剤師は、臨床薬剤師として成長するキャリアパスとして、複数の道が用意されている。

### 2.1 キャリアパス

臨床研修薬剤師制度では、3つのキャリアパスがある。

- コース1** 臨床研修薬剤師の研修と同時に大学院に入学。3～4年目で集中的に研究に従事し、学位を取得後、病院で認定・専門薬剤師等の取得を目指す。
- コース2** 大学院には入学せず、臨床研修薬剤師修了後、病院薬剤学講座に所属し、病院に勤務し、学位取得および認定・専門薬剤師等を目指す。
- コース3** 大学院には入学せず、臨床研修薬剤師修了後、他施設に就職する。



### 2.2 昭和医科大学が目指す臨床研修薬剤師に求められる修得項目

疾患領域	基盤となる知識
(1) 内科領域の薬物療法 (2) 外科領域の薬物療法 (3) がん領域の薬物療法 (4) 代表的な感染症の薬物治療 * (5) Common disease の薬物治療 *  * 主に PGY2 で修得する	(1) 調剤 (処方、注射) (2) 製剤の知識と技能 (抗がん薬調製、TPN 調製を含む) (3) 薬品管理 (4) 医薬品情報管理 (5) 基本薬剤 1 2 0 選 (6) がん化学療法レジメン管理 (7) 安全管理 (8) 薬剤師倫理

臨床研修薬剤師カリキュラムには、以下の項目を盛り込む。

# 1 研修施設および年間スケジュール

## 1.1 PGY1 年間スケジュール

昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学藤が丘病院のいずれかで1年間研修する。

		PGY1											単位認定	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月
研修内容		センター			センター+病棟導入			病棟1 (病棟:センター=1:1)			病棟2 (病棟:センター=2:1)			
センター	業務範囲	単独で実施可能な業務 (○と○※)			最終鑑査開始		日直					当直		自立して当直業務を実施
	基本薬剤	基本薬剤120選①:口頭試問 (薬効群・作用機序・常用量)			基本薬剤120選① (9月まで):口頭試問 (禁忌・減量規定・その他特徴)								120選修得	
	基本レジメン				5レジメン:自己学習								(総合評価試験に合格)	
	医薬品評価				DIの医薬品評価に参加する (1回以上)									
臨床	業務範囲	-			指導薬剤師のもとで病棟研修 (薬品管理、薬剤管理指導、チーム医療の実践) ★内科系疾患、外科系疾患、悪性腫瘍を各1症例以上、修得する								・自立して病棟業務を実施 ・副作用報告又はプレアポイド1件	
	薬剤管理指導件数 (件/月)	-				5	10	15	20	20	各20~40		120件/年	
	修得疾患 (疾患数/クール)	-			1疾患		2疾患 (2以上)			2疾患 (2以上)		5疾患以上		
	症例サマリー (件/クール)	-			1疾患		2疾患 (2以上)			2疾患 (2以上)		5サマリー以上		
講義・演習	集中講義				症例演習1 (必須)			症例演習2 (必須)			症例演習3 (必須)			
	臨床研修薬剤師講義 eラーニング	・安全管理 (各病院) ・薬剤師倫理 ・薬品管理			①病棟導入講義 (薬剤管理指導・SOAPの書き方) ②がん総論 ③外科総論			④病態評価・副作用評価の基礎 ⑤TDM ⑥感染症			⑦緩和ケア ⑧症例プレゼンテーション		すべて受講	
	大学院講義	①救急医療薬学	-	受講 (推奨)										
		②薬学的がんケア学	-	受講 (推奨)										
		③病院薬剤学特論	-	受講 (推奨)										
④病院薬剤師が行う臨床研究		-	受講 (推奨)											
研究	病院薬剤学講座関連セミナー	推奨												
	学会	推奨												
教育	教育評価のためのWS							年2回						
	薬学生の指導	実務実習の指導と評価補助、その他薬学生の实習の指導									1人以上の指導実績			
評価	形成的評価	ポートフォリオ・研修記録 (毎月)、プロフェッショナリズム評価 (3か月に1回) 病棟:ループリック評価 (3か月に1回)、症例検討会 (3ヶ月に1回)									症例カンファレンス	ループリックB以上、症例カンファレンス実施		
	総括的评价	センター到達度試験1 (部署ごとにシニアの口頭試問)			センター到達度試験2 (技能確認:センターシニアによる実技試験)		センター到達度試験3 (120選を中心とした処方監査)		PGY1到達度評価試験	センター到達度試験4 (特殊な疑義照会等)			4つの試験および到達度試験に合格している	
備考		★5月中旬以降にシニア以上の薬剤師の病棟業務に同行する			センター研修を自己で組立		病棟・センターを2週間程度でローテーション			次年度希望調査		PGY2進級確認		

臨床研修薬剤師制度概要

## 1.2 PGY2 年間スケジュール

昭和医科大学病院（東病院）、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学藤が丘病院（リハビリテーション病院）、江東豊洲病院、烏山病院のいずれかで1年間研修する。病棟は1～2病棟を臨床研修薬剤師1～2名で担当する。8月以降に、選択研修（希望者のみ）を5日間×2領域実施する。

		PGY2											単位認定		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月	
研修内容		病棟（発展）・センター（病棟：センター＝1～2：1）											任意		
		選択研修：ER、ICU、周産期、精神科、緩和、小児科、地域医療、各1週間×2つまで その他（病理解剖見学、外来診察同行、外来化学療法室）													
センター	業務範囲		異動者 日直開始	異動者 病棟開始	異動者 当直開始							病院実習1指導 新PGY1指導			
	医薬品評価	DIの医薬品評価を自ら行い、参加する（1回）													
臨床	業務範囲	単独で病棟研修（シニアチェック随時）													
	薬剤管理指導：実施率（%）	20	30	40	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50%への到達
	症例の要約	サマリー（件/年） ※（ ）は4月から病棟担当した場合の累計数	(1)	(2)	(3)	1 (4)	2 (5)	3 (6)	4 (7)	5 (8)	6 (9)	8 (11)	10 (13)	12 (15)	4領域5疾患、累計 12症例以上
	レポート（件/年）				1			2			3			3編以上	
講義・演習	eラーニング	自己学習（各病院必須コンテンツあり）													
	大学院講義	①救急医療薬学	-	受講（推奨）										2～3 個程度選択	
		②薬学的がんケア学	-	受講（推奨）											
		③病院薬剤学特論	-	受講（推奨）											
		④病院薬剤師が行う臨床研究	-	受講（推奨）											
		-													
教育	病院薬剤学講座セミナー	推奨													
	学会	推奨													
	論文	症例報告（副作用報告・ブリアボイド報告含む）1編以上の提出											1編以上		
教育	教育評価のためのWS	年2回													
	薬学生の指導	実務実習の指導と評価補助、その他薬学生の实習の指導											1人以上の指導実績		
評価	形成的評価	ポートフォリオ	ポートフォリオ・研修記録（毎月）、プロフェッショナリズム評価（3か月に1回）												
		ルーブリック	1回目			2回目			3回目			4回目			全項目A
	領域別症例カンファレンス				第1回ケースカンファレンス			第2回ケースカンファレンス			第3回ケースカンファレンス				
	総括的評価				進捗相互 チェック ①				進捗相互 チェック ②					修了判定	修了判定項目の合格
総合判定（評価）		①症例レポートの内容評価 ②全般評価（実行部会/運営部会委員）													

## 2 PGY1 修了の単位認定条件

以下をすべて満たすことを、PGY1 修了の条件とする。

### 2.1 センター

- (1) 基本薬剤 120 選の知識
- (2) 調剤、調製、薬品管理に関する技能試験（6、9 月に実施）
- (3) 当直に必要な業務に関する到達度試験（12 月に実施）
- (4) 学生、新 PGY1 にセンター業務の説明・指導ができる（1～3 月に実施）

### 2.2 病棟

- (1) 3 病棟の各研修で 1 または 2 疾患の修得と症例サマリー（短編）の提出（計 5 サマリー）
- (2) 薬剤管理指導を 3 病棟で合計 120 件以上の実施（各領域で 40 件以上の実施を目安）
- (3) すべてのルーブリック評価で B 以上の到達
- (4) すべての講義科目（e-learning）の受講と確認試験による評価
- (5) ケースカンファレンスでの症例プレゼンテーションと質疑応答

### 2.3 修得度の確認

- (1) 修得すべき知識を到達度評価試験による評価（12 月に実施）

### 2.4 教育

- (1) 薬学生への実地指導の実績を 1 人以上有する。

### 2.5 プロフェッショナリズム

- (1) プロフェッショナリズム評価（3 か月に一度）
- (2) ポートフォリオ（研修記録）の提出（毎月）

### 3 PGY2 修了の単位認定条件

以下をすべて満たすことを、PGY2 修了の条件とする。

#### 3.1 センター

- (1) センター到達度試験にすべて合格していること

#### 3.2 病棟

- (1) 症例レポート（長編）3編以上の作成（ケースカンファレンスシート）
- (2) 研修病棟の薬剤管理指導の実施率における規定以上の実績
- (3) ルーブリック全項目の A レベルの到達（3か月に1回）
- (4) ケースカンファレンス（領域別で実施）での症例プレゼンテーションと質疑応答

#### 3.3 研究

- (1) 症例報告（学術的）1編の提出（医薬品安全性情報報告またはプレアポイド提出も可）
- (2) 学会発表、論文投稿を行った場合は、ベスト臨床研修薬剤師選考時に加点対象とする

#### 3.4 教育

- (1) 薬学生および PGY1 の実地指導の実績を1人以上有する。

#### 3.5 プロフェッショナリズム

- (1) プロフェッショナリズム評価（3か月に一度）
- (2) ポートフォリオ（研修記録）の提出（毎月）

#### 3.6 研修修了評価

上記評価に加え、「昭和医科大学が目指す臨床研修薬剤師像」の各項目の到達度を本人、各施設の臨床研修薬剤師運営部会・実行部会メンバーで評価し、修了条件を満たしていることを確認する。なお、数名をベスト臨床研修薬剤師として、修了時に表彰する。

## 4 PGY2 選択研修

PGY2 は、8月～翌年2月に選択研修を行うことができる。

- (1) 専門領域研修  
ER、ICU、周産期、精神科、緩和、小児科、地域医療（保険薬局：近隣薬局または在宅医療）、外来化学療法（薬剤師外来含む）
- (2) 研修期間  
1領域1週間とする（但し、業務との調整が必要な場合で研修者が了承した場合は3日間まで短縮可能）
- (3) 選択方法  
希望者は、最大2領域の選択することができる。
- (4) 評価  
選択研修希望者は、「PGY2 選択研修ポートフォリオ」を作成し、指定された期日までに提出する。

## 5 所属学会・団体と推奨する認定資格

### 5.1 所属学会・団体

所属する学会（必須、推奨）は以下とする。

- (1) 日本病院薬剤師会：必須
- (2) 都道府県（東京都・神奈川県）病院薬剤師会：必須
- (3) 日本医療薬学会：推奨

日本病院薬剤師会は薬剤師賠償責任保険の加入に必要なため、所属を必須とする。

日本医療薬学会は、薬物療法専門薬剤師やがん専門薬剤師の認定機関であり、専門取得に5年間の学会所属が求められるため、臨床研修薬剤師初年度から所属することを推奨する。

#### 【東京都病院薬剤師会ホームページ】

「B 会員」で登録することを推奨。

<https://www.thpa.or.jp/proceeding>

#### 【神奈川県病院薬剤師会ホームページ】

<https://www.kshp.jp/>

### 5.2 日病薬病院薬学認定薬剤師の単位取得

各種認定・専門資格は、前提となる日病薬病院薬学認定薬剤師の取得を条件とするものが多い。本研修プログラムでは病院薬剤師研修の基礎となる、**日病薬病院薬学認定薬剤師**の単位・認定取得を推奨する。認定条件の概要は以下の通り（詳細は日本病院薬剤師会ホームページを参照）。

- (1) 日本病院薬剤師会の正会員又は特別会員（保険薬局勤務・大学教員等の薬剤師）であること
- (2) 過去3年度を通算して50単位以上を取得し、かつ下記①～③のすべてを満たすこと
  - ① 日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修カリキュラムのうち、下記の項目の単位数を取得していること
    - I - 1～3の各項目の中から1項目以上履修し、合計2単位以上取得すること
    - II - 1～6の各項目の中から2項目以上履修し、合計4単位以上取得すること
    - III - 1～2の各項目を履修し、合計4単位以上取得すること
    - IV - 1～2の各項目を履修し、合計4単位以上取得すること
    - V - 1～3の各項目を履修し、合計6単位以上取得すること
  - ② 薬剤師認定制度認証機構から認証を受けた他の生涯研修プロバイダーから付与された単位は有効とする。ただし、日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修カリキュラムに沿った内容の研修会あり、かつ通算50単位のうち10単位以下であること
  - ③ 毎年度（4月1日から翌年3月31日まで）10単位以上取得していること
- (3) 日病薬病院薬学認定薬剤師認定試験に合格すること

## 5.3 主な昭和医科大学附属病院の施設認定

日本医療薬学会 がん専門薬剤師認定資格	昭和医科大学病院 昭和医科大学藤が丘病院 昭和医科大学横浜市北部病院
日本医療薬学会 専門薬剤師	昭和医科大学病院、昭和医科大学横浜市北部病院 昭和医科大学藤が丘病院、 ※昭和医科大学江東豊洲病院
日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師	昭和医科大学病院、昭和医科大学藤が丘病院 昭和医科大学横浜市北部病院
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	昭和医科大学横浜市北部病院 昭和医科大学病院
小児薬物療法認定薬剤師	昭和医科大学病院

## 6 臨床研修薬剤師が実施可能な業務

◎：すべての臨床研修薬剤師が単独で実施可能（適時指導薬剤師に確認）

○：PGY2 のみが単独で実施可能（PGY1 はつねに指導薬剤師の指導・監視下で実施）

※上記◎、○のうち、所定の認定（各部署における確認試験など）を得たのちに単独で実施可能

項目	業務内容	PGY1
調剤	処方監査	◎※
	計数	◎
	勤務交代時の管理薬管理簿確認	◎
	軟膏調製	◎
	水剤（内用・外用）計量	◎
	散剤秤量・分包	◎
	散剤鑑査	◎
	返品薬の返却処理	◎
	疑義照会	◎
	1次鑑査	◎
	2次（最終）鑑査	◎※
	外来投薬窓口の患者対応	◎※
	電話対応（内線・外線）	◎
	電子カルテの処方受付	◎
	電子カルテの処方修正	○
	患者マスタ登録	◎
	システムダウン時対応（手書き処方箋対応）	◎
注射	電子カルテの注射受付・締め処理	◎
	輸液の取り揃え鑑査	◎
	向精神薬・毒薬の払い出し・返却	◎
	注射箋鑑査	◎※
	注射箋最終鑑査	◎※
	血漿分画製剤せん払い出し・返却	◎

製剤	院内製剤調製	◎
	TPN 調製	◎
	TPN 鑑査	◎※
がん 化学療法	がん化学療法取り揃え・秤取量計算	◎
	がん化学療法の処方監査・レジメン確認	◎※
	抗がん剤の取り揃え鑑査	◎※
	抗がん剤調製	◎※
	抗がん剤調製薬の鑑査	◎※
薬品管理	薬品請求伝票取り揃え	◎
	薬品請求伝票取り揃えの鑑査	◎※
	医療用麻薬注射の払い出し	◎
医薬品情報	医療スタッフからの問い合わせ対応	◎※
管理	医薬品安全性情報報告書の記載	◎
病棟	持参薬報告	◎※
	薬剤管理指導記録の記載	○
	服薬指導（処方薬の説明，病歴聴取等）	◎
	薬剤部で定めた医薬品の情報提供 (DI ニュース，採用薬変更の伝達等)	◎
	TDM（薬物血中濃度に基づく投与設計）	○
	医療用麻薬の返品	◎
	投薬準備（薬剤カートへのセット等）	◎
治験薬	治験薬処方監査	○
	治験薬調剤（処方）	○
	治験薬取り揃え（注射）	○
	治験薬 1 次鑑査	○
	治験薬 2 次（最終）監査	実施不可
指導・評価	薬学生の指導（患者面談、記録確認等）	◎
	薬学生の評価（ルーブリック、学生カンファレンス含む）	○※
	臨床研修医の評価	実施不可
日当直業務	日直	◎※
	当直	◎※

## 7 指導体制（統括薬剤部会議、プログラム実行部会、シニア、プリセプター）

### 7.1 構成

統括薬剤部会議のもとで、各施設の実行部会委員がプログラムの運営を補佐する。各病棟に「プリセプター」という教育担当があり、プリセプターの指導状況をシニアファーマシストが管理する。また、チーフレジデント会（各病院の PGY1,2 代表者で構成）と連携し、プログラムの充実、見直しを行う。

### 7.2 プリセプター

プリセプターは初期研修（PGY1 研修に準じる研修）を修了した薬剤師で、各病棟で 1 名以上が担当する。センター期間中にもプリセプターが指導を担う。プリセプターは、知識・技能の修得を支援し、目標と研修計画立案を管理する。

### 7.3 シニア

病棟においては十分な臨床経験を有し、高い臨床能力と指導能力を持つ薬剤師である。センターにおいてはその部署において十分な経験と知識を有し、高い指導能力を持つ薬剤師である。評価はシニアファーマシストが行う。また、プリセプターの指導が十分行われているかを確認し、必要に応じて効果的なフィードバックを行う。

### 7.4 メンター

5 年以上の実務経験を有し、臨床研修薬剤師の研修および生活上の支援とメンタル面のサポートを行う。メンターの立場としては、指導、評価には直接携わらない。定期的に臨床研修薬剤師と面談する。

### 7.5 プログラム実行部会

統括薬剤部のビジョンに従い、プログラム実行部会で研修プログラムを管理する。

### 7.6 代表者会（チーフレジデント会）

各病院の PGY1、2 の代表者で構成する。各病院の臨床研修薬剤師のリーダーとして、情報共有を行う。また、PGY1,2 の 1 名がプログラム実行部会に出席し、プログラムの検討等に参加する。

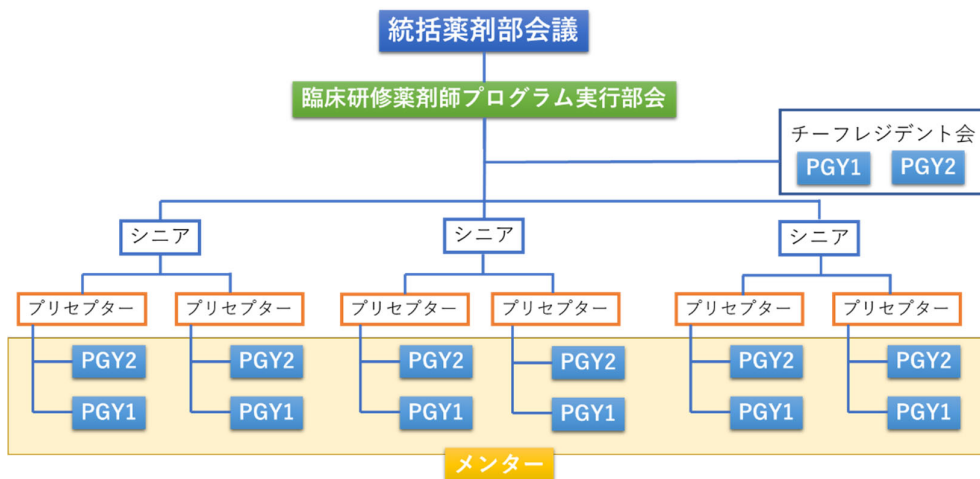


図. 臨床研修薬剤師の指導体制

## 8 コンピテンシーとルーブリック評価

コンピテンシーとは、その人が有する能力である。臨床研修薬剤師プログラムでは、センターや病棟で教育を実施して、その結果コンピテンシーを修得したか、様々な評価方法で確認・検証する。その1つがルーブリック評価である。

### 8.1 ルーブリックのレベル設定

ルーブリックは、臨床能力を段階的に評価するツールである。PGY1 修了時にレベル B、PGY2 修了時にレベル A を目指す。

コンピテンシー		ルーブリック			
		A	B	C	D
1	持参薬確認と初回面談準備 持参薬確認を適切に実施し、初回面談に備える。	<input type="checkbox"/> 持参薬の正確な内容確認と種々の医療情報から、患者の治療中の疾病の病状や治療目標と、持参薬の薬理作用・作用機序を関連付けて把握し、治療中の疾病や持参薬と関連する入院中の問題点を優先順位をつけてもれなく想定できている。	<input type="checkbox"/> 持参薬の正確な内容確認と種々の医療情報（紹介状、外来カルテ、診療録など）から、患者の治療中の疾病の病状や治療目標と、持参薬の薬理作用・作用機序を関連付けて把握している。	<input type="checkbox"/> 持参薬の内容と残数を正確に確認でき、持参薬の適応症、薬理作用、作用機序から、患者に最も可能性の高い使用目的を挙げている。	<input type="checkbox"/> 持参薬の医薬品の内容（種類、剤形、用法・用量）と残数を正確に確認でき、持参薬の適応症、薬理作用、作用機序から推測される基本的な使用目的を挙げている。
		<input type="checkbox"/> 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための最適な確認項目を、事前にもれなく準備している。	<input type="checkbox"/> 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための最適な確認項目を、事前にもれなく準備している。	<input type="checkbox"/> 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための基本的な確認項目を、事前に準備している。	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙から、入院治療に影響を及ぼす重要な情報を漏れなく抽出し、評価できている。	<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙から、入院治療に影響を及ぼす重要な情報を漏れなく抽出し、評価できている。	<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙を、持参薬の内容と合わせて確認したうえで、面談時の情報源として活用している。	<input type="checkbox"/> お薬手帳や医薬品情報説明用紙を確認している。

(臨床研修薬剤師コンピテンシー評価票より抜粋)

### 8.2 評価方法

各研修期間の終了時（6、9、12、3月）に、ルーブリック評価を行う。まずセルフチェックし、プリセプターと共に口頭試問で各項目を評価する。

## 9 臨床研修薬剤師の研修条件

### 9.1 従事すべき業務の内容

病院薬剤師業務

- (1) センター業務
- (2) 病棟業務（薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務）

### 9.2 常勤・非常勤の別

常勤

### 9.3 勤務時間、始業・終業時刻及び休憩時間・所定外労働・休日勤務、宿日直の有無

- (1) 1週の勤務時間：37時間30分  
午前 8時30分 ～ 午後 5時00分（うち休憩時間60分）
  - ・業務上必要なときには、始業時刻・終業時刻を繰り上げ、又は繰り下げることがある。
  - ・自己の為の勉強、学習、研究、図書閲覧等の活動は就労時間としての取扱いをしない。
- (2) 所定外労働・休日勤務の有無：有
- (3) 日当直研修の有無：有  
センター研修の全項目を「修得」した後、日直業務が可能となる（PGY1の7月を目途）。日直1回につき、振替休暇（平日）が1日つく。なお、当直業務は、原則、PGY19ヵ月目以降で行う。
- (4) 出退勤の管理と残業申請  
出退勤管理システム（Timepro VG）を使って、出退勤の打刻、残業申請等を行う。詳細はTimepro VG 使用マニュアルを参照してください。残業は、上長の指示があって残務にあたる場合に申請できる。

### 9.4 休日

日曜・祝祭日、年末年始、本学の創立記念日、その他指定された日

### 9.5 休暇

- (1) 年次有給休暇：12日
- (2) 夏季休暇：あり（前年実績6日間）
- (3) その他の休暇：本学の就業規則による。

### 9.6 処遇

雇用条件書類に従う

## 9.7 宿舎

入寮可。要相談

家賃：月額 15,000 円。光熱水費は全額自己負担

## 9.8 社会保険等

- (1) 健康保険・年金：日本私立学校振興・共済事業団に加入
- (2) 労災保険：加入
- (3) 健康診断：定期健康診断を各研修施設で毎年実施（健康診断を受けない場合、臨床研修薬剤師制度を継続できなくなることがある）。
- (4) 薬剤師賠償責任保険：加入
- (5) ワクチンの接種  
ワクチン（インフルエンザ、B 型肝炎、風疹、はしか、ムンプス、Covid19 等）は各施設で接種。

## 9.9 学会、研究会等への参加の可否

統括薬剤部作成の「学会等出張に関する規定」に従う。なお、自己研鑽の目的で参加する学会等に制限はないが、所定の手続きを行うこと。

## 9.10 個人情報の取り扱い

研修中に知り得た患者の情報は、いかなるものであろうと施設外に流出してはならない。学内研修等で患者情報を施設外に持ち出す場合、研修施設の規定（個人情報管理に関する手順書等）に従う。

また、施設内においても紛失には十分注意し、不用意に持ち歩かないで下さい。診療録、薬剤管理指導記録の複写も厳禁である。以下に示す個人を特定できるような項目は、例にならって記載して下さい。情報ファイル交換ソフトの入った PC は使用できない。以下に患者情報の例を示す。研修に先立って、個人情報の管理に関し、誓約書を記載する。

項目	記載例	備考
患者氏名	記号化する (イニシャル不可)	なし
年齢	○歳代 ○代	小児など、学習に必要な情報であれば、年齢の記載も可とする。但し、他の情報がブラインドされる必要がある。
家族の氏名・年齢	続柄で記載	なし
日付（入院日、退院日、手術日、転科日等）	病日で記載	なし
施設名	記載しない	施設長の許可が得られた場合には記載も可とする。
病棟名	記載しない	なし
紹介元施設名	すべて「他院」と記載	なし
人種民族・国籍	記載しない	学習に必要な場合には記載も可とする。
保険番号・診察券番号	記載しない	なし
電話／FAX番号、E-mail アドレス	記載しない	なし
患者に加療を行った医療従事者の氏名	記載しない	なし

### 9.11 その他の留意点

- (1) 臨床研修薬剤師は、各研修施設の医療安全管理体制に従う。
- (2) 評価表、その他の提出書類は定められた期限までに提出する。
- (3) 臨床研修薬剤師の研修期間中のアルバイト業務は、統括薬剤部で認めた施設で、週に1回まで認める。
- (4) 薬剤師としての適性を欠く場合など研修を継続することが困難であると認められる場合には、統括薬剤部会議において審議する。
- (5) 研修中の情報共有は、臨床研修薬剤師専用のメーリングリストを用いる。研修に関する e メールは、プライベートアドレスを使用せず、必ず昭和医科大学で取得した「〇〇@cmed.showa-u.ac.jp」のアドレスを使用する。業務に関する内容については SNS を禁止する。

## 10 関連資料

本資料は、昭和医科大学統括薬剤部の研修概略を示したものである。研修カリキュラムおよび評価ツールは別途示す。

- (1) PGY1 目標と評価
- (2) PGY2 目標と評価
- (3) PGY1 ポートフォリオ（成長記録表）
- (4) PGY2 ポートフォリオ（成長記録表）

## 11 研修責任者および研修施設

▼研修責任者：田中 克巳（昭和医科大学 統括薬剤部長）

▼研修施設

昭和医科大学病院（PGY1・2 研修病

院） 薬剤部長：嶋村 弘史

〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話（大代表）：03-3784-8000

【最寄駅】東急池上線、大井町線「旗の台」駅徒歩 3 分。東急目黒線「西小山」駅徒歩 10 分。

昭和医科大学病院附属東病院（PGY2 研修病院） 薬局長：和田 紀子

〒142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19

電話（大代表）：03-3784-8000

【最寄駅】東急池上線「旗の台」駅徒歩 10 分。東急池上線「荏原中延」駅徒歩 10 分

昭和医科大学横浜市北部病院（PGY1・2 研修病院） 薬剤部長：縄田 修一

〒224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話（代表）：045-949-7000

【最寄駅】横浜市営地下鉄線「センター南」駅徒歩 5 分

昭和医科大学藤が丘病院（PGY1・2 研修病院） 薬剤部長：藤原 久登

〒227-8501 神奈川県横浜市青葉区藤が丘 1-30

電話（代表）：045-971-1151

【最寄駅】東急田園都市線「藤が丘」駅徒歩 2 分

昭和医科大学江東豊洲病院（PGY1・2 研修病院） 薬剤部長：柏原 由佳

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

電話：03-6204-6000

【最寄駅】東京メトロ有楽町線「豊洲」駅徒歩 6 分。ゆりかもめ線「ゆりかもめ豊洲」駅徒歩 6 分

昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院（PGY2 研修病院） 薬局長：田中 広紀

〒227-8518 神奈川県横浜市青葉区藤が丘 2-1-1

電話（代表）：045-974-2221

【最寄駅】東急田園都市線「藤が丘」駅徒歩 2 分

昭和医科大学附属烏山病院（PGY2 研修病院） 薬局長：黒沢 雅広

〒157-8577 東京都世田谷区北烏山 6-11-11

電話（代表）：03-3300-5231

【最寄駅】京王線「千歳烏山」駅徒歩 10 分

▼研修協力施設

昭和医科大学歯科病院（研修協力型病院）薬局長：渡辺 亜矢子

〒145-8515 東京都大田区北千束 2-1-1

電話（代表）：03-3787-1151

【最寄駅】東急目黒線「洗足」駅徒歩 3 分。東急大井町線「北千束」駅徒歩 5 分